

堀田ハガネ創業70周年

含ニッケル鋼を中心に扱う特殊鋼流通、堀田ハガネ

(本社・大阪府堺市)社長・中川真史氏)は、今年1月に創業70周年を迎えた。高度成長期にはSC、クロモリなど構造用鋼を中心に販売していたが、次第に含ニッケル鋼の扱いを増やし、流通として独自の存在感を發揮している。これまでの歩みを振り返るとともに「100周年を見据えこれからの30年を当社が『なくてはならない存在』となれるよう川つなげていきたい」とする中川社長に今後の事業展望を聞いた。



長 30年を当社が『なくてはならない存在』となれるよう川つなげていきたい」とする中川社長に今後の事業展望を聞いた。

同社は、故堀田公氏が1956年(昭31)大阪市西区で個人創業。59年に株式会社となった。当初は構造用鋼を中心に販売していたが、69年に含ニッケル鋼の扱いをスタート。ニッチな需要分野ながら徐々に拡販を進め、現在で

創業当時の堀田鋼商店



靖氏は含ニッケル鋼をベースにイメージした同社のキャラクター、ガンニッケルマンを完成し2015年に商標登録した。ガンニッケルマンは同社社員の名刺に印刷されているほか、オリジナル社歌に合わせ踊っている様子がユーチューブで紹介され、同社のPRに一役買っている。昨年7月に社長に就任した中川氏は「人本経営をはじめどんなささいなことでも臆さず提案してもらおうという働き掛け」とする。営業面では「含ニッケル鋼のシェアを死守するとともに表彰で見える化する」と、中川社長)とすることで、仕事へのやりがいや、今後内需の減少が明らかと社内の一体感を高めていきな中、それだけでは販売量を維持できない。「エネルギー関連など当社の販売が少ない需要分野に一層PRするとともに、含ニッケル鋼を使っていないユーザーにもアプローチしたい。海外に進出した日系企業向けの間接輸出も今後取り組んでいきたい」と(同)と新たな分野に拡販していく方針だ。社内では「ボトムアップを重視し、第一線で働く社員の見解をくみ上げ、それを実現できるようなしていきたい」と話す。その一環が社内表彰制度だ。社内の各部署から改善提案を募り表彰している。「当事者意識を持つて」と思つ(同)と話す。(橋川 渉)

含ニッケル鋼販売で全国シェア70%

100周年へなくてはならない存在に

年に特殊鋼メーカーで熱処理の技術講習会を開催するなど加工への造詣が深かった。85年には二つの倉庫を集約し、大阪府堺市に大阪サービスセ

バブル景気の崩壊で事業環境が悪化し、同社も苦しい状況に追い込まれた。その苦境を善活動に取り組んだ。靖前社長が公氏から受け継いだモットーの一つに「宣伝」がある。

前社長の方針を継承していきず提案してもらおうという働き掛け」とする。営業面では「含ニッケル鋼のシェアを死守するとともに表彰で見える化する」と、中川社長)とすることで、仕事へのやりがいや、今後内需の減少が明らかと社内の一体感を高めていきな中、それだけでは販売量を維持できない。「エネルギー関連など当社の販売が少ない需要分野に一層PRするとともに、含ニッケル鋼を使っていないユーザーにもアプローチしたい。海外に進出した日系企業向けの間接輸出も今後取り組んでいきたい」と(同)と新たな分野に拡販していく方針だ。社内では「ボトムアップを重視し、第一線で働く社員の見解をくみ上げ、それを実現できるようなしていきたい」と話す。その一環が社内表彰制度だ。社内の各部署から改善提案を募り表彰している。「当事者意識を持つて」と思つ(同)と話す。(橋川 渉)